

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
106-120	高等学校	商業科	ビジネス基礎	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
東法 190	商業 190-901	ビジネス基礎 新訂版		

1. 編修の基本方針

- ・編修にさいしては、教育基本法第二条の各目的の実現に資する題材を選定し、科目の特性と調和をとりつつ、各目的がこの教科書を通して無理なく達成できるように心がけた。
- ・生徒が主体的に考え、職業と普段の生活との関連性などについて理解を深めることができるよう、生徒にとって身近な例や問いかけなどを本文内に取り入れることを方針として著述した。特に、キャラクターの「考えてみよう！」による問いかけでは、生徒が身近なものや普段の生活を思い返し、それらと学習内容を結び付けて考えることができるような内容になるよう心がけた。また、適宜グループワークや調べ学習を行う課題を設け、生徒が主体的かつ協働的に学習できるよう配慮した。
- ・第1章では、身近な生活にビジネスがどのように関わっているかを示し、ビジネスへの理解を深め、商業の学習の動機づけを行うことができるように配慮した。また、グローバル化やサービス経済化など社会の変化に伴うビジネスの動向について具体的な事例とともに著述し、生徒が興味・関心をもってビジネスについて考えることができるように心がけた。
- ・第2章では、ビジネスマナーの重要性を示すとともに、イラストを多く掲載して生徒が実践するにあたり、わかりやすい例示を心がけた。また、情報の入手と活用について、インターネットを利用した情報収集の方法と留意点について丁寧に著述した。さらに、収集した情報を伝達するにあたり、表現方法の工夫例をイラストで示した。
- ・第3章では、流通の必要性や働き、ビジネスの諸活動についてイラストなどを用いて図解し、具体的なイメージをもって学習を進められるように配慮した。
- ・第4章では、企業や組織の種類について理解を深められるようイラストを用いて図解した。また、企業のマーケティング活動において「あるメーカーの緑茶飲料市場への新規参入」の事例を図で示すことで4P政策について理解の促進を図った。財務諸表の役割では、貸借対照表と損益計算書について、それぞれ具体的な例を示し、視覚的に読み方や作成のしかたを理解できるように配慮した。
- ・第5章では、東京圏など大都市圏に人口が集中している現状についてグラフを用いて示し、地域の課題と地域活性化の重要性について生徒の理解が深まるよう工夫した。また、地域ビジネスの事例を複数取り上げ、生徒がより具体的なイメージをもって地域ビジネスについて考えられるように配慮した。
- ・第6章では、電子記録債権やキャッシュレス決済などについてイラストや写真を用いながら解説し、現代におけるさまざまな決済手段について理解が深まるように配慮した。ビジネス計算の方法では、生徒の理解度を勘案し、度量衡や貨幣の単位の換算など比較的平易な計算を先に学習したのち、仕入原価や売買損益の計算を学習できるよう配置した。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
口絵 i ～ x	・商業の学習により経済社会の発展を担う職業人としてさまざまな仕事に取り組むことや、商業科のそれぞれの科目と職業との関係を示した（第二号）。 ・企業が世界と関わりながらビジネス活動を行い、海外進出を図っていることを、写真とともに掲載した（第五号）。 ・地球温暖化が進行することによる問題について具体例を写真とともに掲載し、再生可能エネルギーの活用事例を示して、低炭素社会をめざしたビジネスの重要性を著述した（第四号）。 ・日本各地のさまざまなビジネスを紹介し、地球環境へ配慮したビジネスや、地域の伝統・文化によるビジネスなどについて理解が深まるように配慮した（第四号）。	・口絵 i ～ ii ・口絵 iii ・口絵 vi ・口絵 ix ～ x
第1章 商業の学習と ビジネス	・「商業の学習で身につけたい力」として、ビジネスの課題をみずから探求し、他者とコミュニケーションをとりともに働きながら経済社会の発展に貢献していくことについて著述した。 ・「商業の学び方」として、みずから興味をもって主体的に知識や技術を身につけることや、地域社会での体験的な学習を通して主体性や創造力、他者と協働していく力などを養うことについて著述した（第一号、第三号）。 ・働くことの意義や職業と生活、商業の学習との関連性について著述した（第二号）。 ・消費者のニーズが精神的な満足や地球環境を守ることにあることを著述した（第四号）。 ・企業は環境への配慮や人権の尊重、コンプライアンスの徹底などを通して商品やサービスの価値を向上させ、社会に貢献することについて著述した（第三号）。 ・企業が海外進出するにあたり、進出先の国の文化や歴史、慣習を尊重し、国際的な理解のうえに立ったビジネスが必要なことを記述した（第五号）。 ・環境ビジネスやエコビジネスなど地球環境問題に対応する新たなビジネスが生まれていることや、社会全体で循環型社会の形成を求められていることを著述した（第四号）。 ・食品ロスが地球環境に負荷をかけており、企業ではさまざまな食品ロス削減対策に取り組んでいることを著述した（第四号）。	・3 頁 5～12 行目 ・3 頁 13～19 行目 ・4 頁～5 頁 ・6 頁 5～7 行目 ・6 頁 15 行目～7 頁 ・10 頁 15～19 行目 ・14 頁 11 行目～15 頁 8 行目 ・16 頁

	・章末に、1章で学んだ知識の理解度を確認する問題や、グループで卒業生の就職先や進路について調査を行って話し合い、自分の進路について考える課題を掲載した（第一号）。	・18 頁
第2章 ビジネスに対する 心構え	・ビジネスにおいて必要とされる倫理観、責任感や、ビジネスを通して社会に貢献する意識などについて著述した（第三号）。 ・ホスピタリティについて説明し、ビジネスの諸活動を通して社会全体の経済発展に寄与しようという心の姿勢を養うことについて著述した（第三号）。 ・章末に、2章で学んだ知識の理解度を確認する問題や、企業によるコミュニケーションの方法について調査を行い、発表する課題を掲載した（第一号）。	・20 頁～21 頁 ・29 頁 4～14 行目 ・38 頁
第3章 経済と流通	・メーカーの社会的責任として、自社の商品が消費者によって購入された後のことも考えなければならぬことを著述した（第四号）。 ・環境の保全が企業の社会的責任であることを著述し、容器包装リサイクル法のしくみについてイラストを用いて著述した（第四号）。 ・環境を考慮した自動車輸送の輸送手段として電気自動車やハイブリット車への切り替えが急がれていることを著述した（第四号）。 ・環境負荷軽減を図るモーダルシフトについて著述した（第四号）。 ・環境に配慮した効率的な物流システムの構築が課題となっていることを著述し、ロジスティクスの確立やサプライチェーンマネジメントについて説明した（第四号）。 ・章末に、3章で学んだ知識の理解度を確認する問題や、社会環境や消費者のライフスタイルの変化に伴い新たに生み出されたサービスについて調査を行い、発表する課題を掲載した（第一号）。	・58 頁 13～18 行目 ・58 頁 19 行目～59 頁 12 行目、59 頁コラム ・78 頁 9～12 行目 ・78 頁 18～20 行目 ・80 頁 2～17 行目 ・92 頁～94 頁
第4章 企業活動	・企業はビジネスの主体として、利益の追求だけではなく、事業を通じて社会に貢献することが重要であることを著述した（第三号）。 ・企業はマーケティングを展開するにあたり、社会全体の利益に貢献することを考えなければならないことを著述した（第三号）。 ・企業の社会的責任（CSR）について、社会的信頼の観点から著述した（第三号）。 ・同一労働同一賃金について扱い、雇用形態に関係なく、あらゆる待遇において不合理な差をつけることが禁止されていることを著述した（第三号）。 ・人口減少やグローバル化が進展しているなかで、	・96 頁 2～5 行目 ・105 頁 ・120 頁 3～13 行目 ・121 頁コラム ・122 頁 7 行目～123

	ダイバーシティ経営を進めることの重要性について著述した（第二号）。 ・章末に、4章で学んだ知識の理解度を確認する問題や、福利厚生などについて調査を行い、調べたことをまとめる課題を掲載した（第一号）。	頁 5 行目 ・ 124 頁～126 頁
第 5 章 身近な地域の ビジネス	・グローバル化が進むなかで、インバウンド消費の増加による地域活性化に向けた取り組みが行われていることや、異なる文化の人々との交流の場を設けることや多文化共生の理念が重要となっていることを著述し、自国の文化とともに他国の文化を尊重することについて理解を深められるよう配慮した（第五号）。 ・地域のビジネスを振興するために、地域の住民との共生や自然環境との調和を図り、持続可能なビジネスを創造していくことの重要性について著述した（第四号）。 ・地域の活性化に取り組む企業の事例として、ビジネスによる東北への持続的な復興支援を行っている自動車メーカーの事例を取りあげ、写真とともに掲載した（第三号）。 ・地域ビジネスの事例として、千葉県の鉄道会社C社、香川県直島町、宿泊業などを手がけるH社の事例をそれぞれ紹介して、地域の発展や持続可能性を考えたビジネスに取り組むことの重要性を示した（第三号）。 ・章末に、5章で学んだ知識の理解度を確認する問題や、身近な地域の特色について調査を行い、地域の振興策を考え、発表する課題を掲載した（第一号）。	・ 130 頁 11～21 行目 ・ 132 頁 15 行目～133 頁 10 行目 ・ 133 頁コラム ・ 134 頁～135 頁 ・ 136 頁
第 6 章 取引と ビジネス計算	・日本・アメリカ・EU・イギリス・中国の通貨単位・記号・補助通貨単位について示し、国際社会への理解が促進できるようにした（第五号）。 ・章末に、6章で学んだ知識の理解度を確認する問題を掲載した（第一号）。	・ 161 頁 側注① ・ 192 頁～194 頁

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

「社会において果たさなければならない使命の自覚に基づき、個性に応じて将来の進路を決定させ、一般的な教養を高め、専門的な知識、技術及び技能を習得させること」（学校教育法第 51 条第 2 号）の観点から、第 1 章「商業の学習とビジネス」では特に、ビジネスに関する理論と知識の習得と同時に、ビジネスに関する技術の習得についても記述した。また、将来の進路について考えることができるよう、5 ページでは商業の学習分野と該当科目、職業との関連性について図で示した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
106-120	高等学校	商業科	ビジネス基礎	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
東法 190	商業 190-901	ビジネス基礎 新訂版		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

- ・授業の配分をしやすいうように、本文は見開き構成とした。また、ページごとに学習のポイントをまとめ、学習者が学習内容を整理しやすい構成とした。
- ・ページには適宜図やイラストを掲載して、生徒の興味・関心を引きつけるとともに、理解が高まるように配慮した。
- ・重要用語については太字表記を用い、また関連する内容を適宜側注に著述した。
- ・ビジネスに関する基礎的な知識と技術を習得させるために、章末に練習問題を設けた。
- ・キャラクターの吹き出しを用いて、クラスで話し合ったり、生徒が自発的に考えたりできるような問いかけをおこない、生徒の理解を促進し、学習意欲を高めるように配慮した。また、生徒の主体的な学習を促すために、各章の練習問題において、グループで話し合ったり、自身の考えをまとめたりする問題を設けた。
- ・ビジネスのグローバル化の進展をふまえ、基本的な用語は英語表記とあわせて指導できるように、必要と思われる用語には英語表記を適宜付した。
- ・生徒が信頼性の高い情報を入手し分析できるように、客観的信頼性の高い情報をグラフなどで掲載した。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
第1章 商業の学習とビジネス			
第1節 商業を学ぶ重要性和学び方	(1)商業の学習とビジネス ア 商業を学ぶ重要性和 学び方	2-5 頁	1
(1)商業を学ぶ重要性			
(2)商業の学習で身につけたい力と学び方			
(3)商業の学習分野と職業			
第2節 ビジネスの役割	(1)商業の学習とビジネス イ ビジネスの役割	6-9 頁	2
(1)ビジネスと企業の社会的責任			
(2)ビジネスの発展と諸活動			

第3節 ビジネスの動向と課題	(1)商業の学習とビジネス ウ ビジネスの動向・ 課題	10-17 頁	2
(1)経済環境の変化とビジネス			
(2)ビジネスの課題			
第1章 練習問題		18 頁	—
第2章 ビジネスに対する心構え			
第1節 信頼関係の構築	(2)ビジネスに対する 心構え ア 信頼関係の構築	20-21 頁	1
(1)望ましい信頼関係を構築することの 意義			
第2節 ビジネスマナー	(2)ビジネスに対する 心構え イ コミュニケーション の基礎	22-29 頁	3
(1)基本的なビジネスマナー			
(2)ホスピタリティ			
第3節 良好な人間関係と コミュニケーション		30-33 頁	2
(1)良好な人間関係とコミュニケーション			
(2)企業内外のコミュニケーション			
第4節 情報の入手と活用	(2)ビジネスに対する 心構え ウ 情報の入手と活用	34-37 頁	2
(1)情報収集の方法			
(2)情報収集の留意点			
(3)インターネットからの情報収集			
(4)情報の分析			
(5)情報の伝達			
第2章 練習問題		38 頁	—
第3章 経済と流通			
第1節 経済の基本概念	(3) 経済と流通 ア 経済の基本概念	40-45 頁	3
(1)経済生活と経済のしくみ			
(2)市場と価格			
(3)トレード・オフと機会費用			
第2節 流通の意義と役割	(3) 経済と流通 イ 流通の役割	46-57 頁	4
(1)流通の成立と発展			
(2)流通の必要性			
(3)流通の働きとその担当者			
(4)商品の種類			
(5)商品の流通経路			
(6)今日の流通			
第3節 ビジネスの諸活動	(3) 経済と流通 ウ 流通を支える活動	58-91 頁	10
(1)メーカーのビジネス活動			
(2)小売業者のビジネス活動			
(3)有店舗小売業の種類			
(4)小売業者の組織化			
(5)集団立地			
(6)無店舗小売業			

(7)卸売業者のビジネス活動			
(8)中央卸売市場			
(9)物流業者のビジネス活動			
(10)輸送方法の種類			
(11)物流システム			
(12)金融機関のビジネス活動			
(13)保険業者のビジネス活動			
(14)情報通信業者のビジネス活動			
(15)サービス業者のビジネス活動			
第3章 練習問題		92-94 頁	—
第4章 企業活動			
第1節 企業の形態と組織	(5)企業活動 ア 企業の形態と組織	96-103 頁	3
(1)経営理念			
(2)企業の出資者			
(3)企業の種類			
(4)企業の組織			
第2節 企業のマーケティング活動	(5)企業活動 イ マーケティングの 重要性と流れ	104-107 頁	2
(1)マーケティングの重要性			
(2)マーケティングの流れ			
第3節 資金の管理と調達	(5)企業活動 ウ 資金調達	108-109 頁	1
(1)資金の管理			
(2)資金調達のしくみ			
第4節 財務諸表の役割	(5)企業活動 エ 財務諸表の役割	110-113 頁	2
(1)財務諸表の目的と役割			
(2)財務諸表の内容と読み方			
第5節 企業活動に対する税	(5)企業活動 オ 企業活動に対する税	114-117 頁	2
(1)企業活動にかかわる税			
(2)申告と納税			
第6節 雇用	(5)企業活動 カ 雇用	118-123 頁	2
(1)雇用の形態			
(2)雇用にとまなう企業責任			
(3)ダイバーシティ			
第4章 練習問題		124-126 頁	—
第5章 身近な地域のビジネス			
第1節 身近な地域の課題	(6)身近な地域のビジネス ア 身近な地域の課題	128-129 頁	1
(1)身近な地域のビジネス			
(2)地域の課題			
第2節 身近な地域のビジネスの動向	(6)身近な地域のビジネス イ 身近な地域のビジネス の動向	130-135 頁	2
(1)社会・経済環境の変化による ビジネスの動向			
(2)身近な地域のビジネスの振興			

第5章 練習問題		136 頁	—
第6章 取引とビジネス計算			
第1節 売買取引の方法	(4)取引とビジネス計算 ア 売買取引と代金決済	138-147 頁	4
(1)売買契約			
(2)売買条件			
(3)売買契約の締結と履行			
第2節 代金決済の方法		148-155 頁	4
(1)通貨			
(2)小切手			
(3)約束手形			
(4)電子記録債権			
(5)キャッシュレス決済			
第3節 計算用具の歴史	(4)取引とビジネス計算 イ ビジネス計算の方法	156-157 頁	1
(1)計算用具の歴史			
(2)わが国におけるそろばんの歴史			
第4節 ビジネス計算の方法		158-191 頁	16
(1)計算の基礎			
(2)度量衡の計算			
(3)外国貨幣の計算			
(4)割合に関する計算			
(5)割増に関する計算			
(6)割引に関する計算			
(7)商品の数量と代金の計算			
(8)仕入原価の計算			
(9)製品単価の計算			
(10)販売価格の計算			
(11)売買損益の計算			
(12)利息の計算			
(13)手形割引の計算			
(14)債券の売買と評価			
(15)株式の売買と評価			
(16)複利年金と年賦金の計算			
(17)積立金の計算			
第6章 練習問題		192-194 頁	—
		計	70